

## 【基盤研究(S)】

### 総合・新領域系（複合新領域）



#### 研究課題名 インド農村の長期変動に関する研究

東京大学・大学院人文社会系研究科・教授 みずしま つかさ  
**水島 司**

研究分野：複合新領域（地域研究）

キーワード：南アジア

#### 【研究の背景・目的】

インドは、今、劇的な変化を経験しています。そして、21世紀の早い段階に、インドは世界経済、世界政治での地位を急速に高めていくと思われま。このインドの変化の方向を見定め、近い将来に深刻化するであろう社会経済問題を見通し、その処方箋を見出すことは、我々地域研究に携わる者の最も重要な課題の一つです。

こうした課題に応えるには、多面にわたる長期的な情報の蓄積と分析、方法論の積み重ねが不可欠です。しかし、我が国においては、インドの実態を科学的に捕捉するための研究・情報基盤も、変化を分析する有効な手法の開発も、いずれも貧弱です。研究手法・研究成果の蓄積体制、研究体制の整備と刷新が急務となっています。

このような危機感を背景に、本研究では、歴史学、経済学、農学、地学、気候学、環境学などの研究者が集まって、次の研究を行います。まず、インド農村の長期変動の実態を解明する着実な研究基盤を築き、データベースを構築します。それによって、分析のためのしっかりとした資料を整備しようということです。そして、それを基盤にして、インドが直面する問題の処方箋を導き出すことを目的としています。

#### 【研究の方法】

この研究では、マクロとミクロの二つのレベルの研究を結合し、その議論の過程をGIS（地理情報システム）と呼ばれる技法を用いて結びつけるという方法をとります。

マクロというのはインド全体を対象とした研究で、基本的には現在を扱うのですが、そこでの分析結果が長期的な動きの中でどのような意味を持つのかも考えます。他方、ミクロというのは、特定の地域、たとえば村とか都市とかのより狭い空間を対象とした事例研究です。また、GISというのは、簡単に言えばそうした分析結果を地図上で示すという技法です。

このような全体の方法的枠組みの中で、インドに関する主要な政府報告、統計、研究などを研究分担者がそれぞれ処理していくことになります。そして、そうした分析結果を、インドをはじめとする内外の研究者とのワークショップや国際シンポジウムを組織して問い、成果を公表していきます。

ではどのような資料を集め、処理し、分析していくかということですが、インドでは近年多くの

報告がデジタル情報として続々と出てきています。本プロジェクトでは、さしあたり、National Sample Survey（家計調査）、Census（人口動態）、Annual Survey of Industries（工業）、Agricultural Statistics of India（農業）、Season and Crop Report（作付）、Rural Household Survey（農家家計調査）、National Family Health Survey（健康、保健）、School Report Cards（学校、教育）、National Readership Survey（メディア）、National Council of Applied Economic Research（消費行動）、Environmental Information Centre（土地利用）、Ministry of Environment and Forest（環境）などを分析対象とします。

これらの情報と、現地調査によって取得されるより精度の高い精密な情報を、人文・社会学系の研究者と自然科学系の研究者が協力し合って分析することによって、信頼しうる研究結果を生み出すことになると考えています。

#### 【期待される成果と意義】

上記の作業によって、インドの経済や環境に関する重要なデータベースが作成され、インド農村をめぐる経済や環境の現状、それらの長期的な動向、学問的及び研究上の 이슈が明らかとなります。

また、こうした基礎的作業を重ねて、その成果を蓄積していくことにより、インドの、ひいては世界の将来への展望を見出すことができるようになります。そのことは、アジア研究に携わる我々日本人研究者の責務を果たすことでもあると思っています。

#### 【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- ・水島司『前近代南インドの社会空間と社会構造』東京大学出版会 2008年
- ・水島司「環境の長期変動」『現代南アジア 4. 開発と環境』東京大学出版会 2002

#### 【研究期間と研究経費】

平成21年度－25年度

128,200千円

ホームページ等

本研究専用のホームページは現在準備中です。さしあたりは、研究代表者のホームページ (<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/~zushima9/>) を通じて概要を知ることができます。